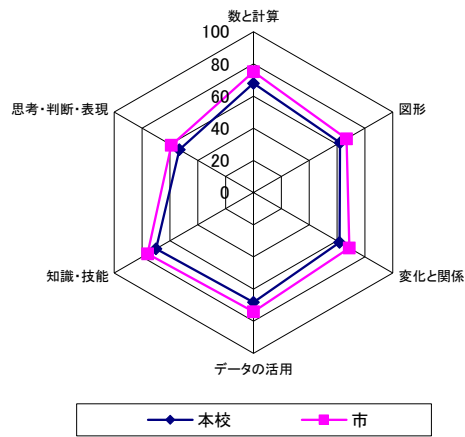


宇都宮市立宝木小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	68.0	75.1	75.8
	図形	62.1	66.8	68.3
	変化と関係	61.9	68.8	65.0
	データの活用	68.3	74.1	63.6
観点別	知識・技能	69.9	76.1	75.8
	思考・判断・表現	53.2	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	本校の平均正答率は、市の平均と比べると低い。 ○図を見て、小数倍の文章問題の立式をする問題では、正答率が市の平均をやや上回った。 ●小数や分数の計算の正答率が市の平均より約10ポイント低い。 ●文字を使って、2つの数量の関係を式に表す問題では、正答率が市の平均より約10ポイント下回った。	・小数同士の乗法、除法の計算に課題が見られた。乗法、除法とともに小数点の処理に課題があると考えられるので、加法、減法との違いを明確にしなが、基本的な計算力の向上を図りたい。 ・分数の計算では通分や約分に課題が見られた。数直線を用いて分母の異なる分数の大きさの理解を深めながら、通分と約分の意味を再確認すると共に、AIDリルなどを活用して繰り返し計算の仕方を定着させていきたい。
図形	本校の平均正答率は、市の平均と比べるとやや低い。 ○円の面積を求める問題や三角形の作図の問題では、正答率が8割であった。 ○点対称の対応する辺の長さを求める問題では、正答率が8割で市の平均と同等であった。 ●高さが図形の外にある三角形の面積を求める問題では、正答率が3割と低い。	・公式を活用し、基本的な図形の面積や体積を求めることはできるが、面積や体積を求めるために必要な辺の長さや高さなどを自分で見つけることが難しい。公式に当てはめる数値が示されている問題だけでなく、自分で必要な値を調べて面積や体積を求める経験を授業の中で意識的に取り入れ、定着を図りたい。
変化と関係	本校の平均正答率は、市の平均と比べると低い。 ○単位量あたりの大きさで、混み具合を求める問題では、正答率が市の平均と同等であった。 ●速さと道のりから時間を求める問題では、正答率が市の平均を10ポイント以上下回った。 ●割合を求める問題では、正答率が5割と低い。	・速さの問題では、時速について理解ができて、分速、秒速になると難しいと感じる児童が多く見られた。授業において、時速から分速、秒速へと換算する仕方を繰り返し行い、定着を図っていく。 ・割合の問題では、文章題から基準量、比較量を読み取れることを苦手とする児童が多い。文章題を解く際には、日頃から図や数直線などに表して問題の意味を捉えることを繰り返し指導していく。
データの活用	本校の平均正答率は、市の平均と比べると低い。 ○円グラフから数値を読み取る問題では、正答率が9割と高かった。 ○データから平均値を求める問題では、正答率が8割を上回った。 ○ドットプロットの最頻値を求めたり、度数分布表に表したりする問題では、正答率が8割を上回った。 ●ドットプロットの中央値を求める問題では、市の平均を10ポイント下回った。 ●文章題を読み解き、求めた平均値を活用して求める問題では、正答率が市の平均を10ポイント以上下回った。	・ドットプロットからデータを読み取ることは、概ね定着が図れたが、授業で様々なデータを扱う中で、集団が偶数の場合と奇数の場合の中央値の求め方の違いについて理解を深める必要がある。 ・記述問題では正答率が低く、無回答率も高いことから、授業中に考え方や求め方を記述する機会を意識的に設定し、苦手意識をなくしていきたい。